

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0226
施設名	奥戸保育園
施設所在地	葛飾区奥戸 6 - 2 4 - 1
法人名	宗教法人妙法寺

1. 活動のテーマ

<テーマ>

植物栽培（5才児クラス）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

・宗教法人である奥戸保育園として「命」を大本のテーマとし、年長児が食への興味・関心が高く、栽培から更なる発見へと繋げる事が出来るように植物栽培をテーマに行う。

2. 活動スケジュール

- 1、植物栽培用の苗を子ども達と一緒に購入に行く（5月）
- 2、グループごとに決めた植物の苗の栽培開始。（5月）
- 3、収穫。（7月～9月）
- 4、収穫した野菜でクッキング。（カレー）（9月）
- 5、栽培した植物の片付け。（11月）
- 6、植物栽培について模造紙に子ども達とまとめて、園内に掲載。（3月）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材、道具】

・野菜の苗 ・プランター ・培養土 ・軽石 ・iPad ・すいか ・植木鉢

【環境の設定】

- ・4人のグループを4つ作り、グループ内で相談して栽培を進められるようにした。
- ・子どもたちが意識して水やりや観察、撮影記録を行う中で出てくる疑問や要望には、適切な声掛けを行っていった。
- ・子ども達が記録として撮った写真は印刷して変化を比べられるようにした。
- ・植物栽培を通して、更なる探求心から子どもの気づきを拾い上げて、実践できる環境を整えた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・植物選び

奥戸園に野菜の苗を見に行き、グループでどの野菜を育ててみたいか相談し、購入。

・植物栽培開始

購入した野菜の苗をプランターに移して栽培開始。グループで水やりや記録を続ける。

・収穫

収穫した野菜を栄養士と相談し、給食で実食。他クラスの子ども達にも食べてもらう。

・植物の種

収穫したミニトマトを食べている時に種があることに気付き、育ててみる。その後、ミニトマトは上手く育たず、種から育てる難しさを感じながらも「スイカの種」に興味を持ち、やってみたい子ども達で栽培を開始。スイカの実が実り、何色のスイカか予想をしながらカットをして少量ずつ実食。他にも様々な植物を育ててみたいとの声が多く聞かれるようになった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・グループごとに野菜の苗を一種類ずつ育てることで、グループで協力して水やりをしたり、台風がきた時には室内へと協力してプランターを避難させる姿が見られた。

・野菜の実が実る前に花が咲いていることに気が付いた子が「ミニトマトは赤いが花は黄色なのは何故か」という疑問を持ち、iPadで調べ気付きを得た。また花が落ちると実が実ることを観察から気付き、花が咲くと「もうすぐ実が出来るね」と子ども達で写真を撮って観察を楽しんでいた。

・野菜を育てていく中で、「ミニトマトの中にある種を育てたらミニトマトが出来るのか」疑問を持つ子がおり、栽培の仕方を調べて栽培を開始。発芽はするがすぐに枯れてしまい、種から育てる栽培の難しさを実感している様子であった。

・その後給食で食べたスイカから「スイカの種を植えたら実は実るのか」興味を持つ子が多くいたため、実践。水栽培から始め、発芽したスイカの種をプランターにうつし、水やりを続けるとスイカの実が実った。スイカの実を見た子ども達から「中身は何色なのか」と期待の声が上がり、絵にかいて予想をする。保育者が子どもたちの目の前でスイカを切って見せると非常に盛り上がっていた。

・野菜の苗やスイカの蔓を片付ける時には「片付けるのが寂しい」と涙する子がいて植物栽培から命の大切さを学ぶきっかけになったことを実感した。





5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・食への興味関心が元々高いクラスだったため、野菜の栽培は子ども達にとっても合ってる内容だった。栽培が始まり育てていく中で子ども達から「なぜ花は黄色いのか」「種から育てるにはどうしたらいいのか」等の疑問が沢山出てくることに感心した。疑問を一緒に解決したり、やってみたいと思ったことに挑戦できるような環境を整えると、子ども達発信で色々な栽培へと繋がっていった。
- ・子どもたちが興味を持った「種からの栽培」は上手くいくか分からない中で始めたが、失敗しても成功しても子ども達の学びに繋がったことを今回の経験の中で実感した。
- ・グループごとに栽培した野菜の収穫後、どうするかを相談すると自分たちだけではなく、保育者や年下のクラスにも分けてあげたいという声上がり、植物の栽培から思いやりの気持ちが芽生えたことを嬉しく思った。
- ・大切に育ててきた野菜の苗が枯れてしまい、収穫が終了したことを伝えると「みんなで協力して最後まで片付けをしよう」と責任感を持って取り組むことが出来ていた。片付けの最中には「大切に育ててきた野菜を片付けてしまうのが寂しい」と涙する子もいて、命の大切さにも気付ける良い経験となったと思った。
- ・子ども達が撮影してきた野菜の成長写真は最後模造紙に貼り、子ども達とまとめを作成した。作成していく中で楽しかった思い出としてまとめる事が出来た様子であった。一年間の栽培のまとめが完成後には各クラスや職員に発表し、玄関にも掲示をして保護者が閲覧できるようにし、実施内容を共有した。年下のクラスの子もたちが興味津々で見っていたのが印象深かった。
- ・令和6年度の年長児が栽培を始めたが、他クラスも栽培の様子を楽しく見る様子が見られたため、令和7年度以降も植物栽培が継続できるような環境を引き続き整えていきたい。